

○ 1 0 番（合田晋一郎）（登壇）

みらい新居浜、合田晋一郎です。よろしくお願いいたします。

それでは、通告に従いまして、会派を代表して質問させていただきます。

わくわくする楽しい新居浜の未来図についてです。

最初に、副市長室に掲げられています鳥瞰図を紹介させていただきます。作者は寺本左近氏で、昭和27年頃に描かれたものだと推測されています。この鳥瞰図は、その時代の町の様子を描いたものではなく、将来の町の姿を描いた都市計画鳥瞰図です。当時の計画道路も描かれています。星越の総合グラウンドなど、将来構想図も描かれ、新居浜の未来図、将来構想図のようです。

旧市内と住友関連施設が詳しく表現されており、新居浜の都市計画の父と称される鷺尾勘解治氏の地方後栄の策がかいま見えることから、工都新居浜の礎を築いた鷺尾氏と白石誉二郎初代新居浜市長の夢見た将来の町の姿を描いたものです。昭和27年の市制施行15周年を記念して描かれたのではないかと考えられています。

銅山なき後の地方後栄策が着々と進み、躍進する新居浜が実現していることが表現され、描かれた当時の市長は白石捷一氏で、白石誉二郎氏の御子息であるので、父、誉二郎氏と鷺尾氏との工都新居浜構想の夢が実現していることを描いていると考察されています。

市長室に古川拓哉市長の描く、わくわくする楽しい新居浜の未来図を掲げていただきたいとの思いで紹介させていただきました。新しい新居浜を描き、トップセールスに御活用いただきたいと思います。道路や建物といったハード面だけでなく、施設のソフト面も表現できると思います。

昭和47年に発行された市制施行35周年の記念誌には、10年後の新居浜市として未来図が描かれています。山際にはまだ開通前の高速道路が描かれ、インターは瑞應寺付近にあります。

それでは、都市機能誘導区域について質問させていただきます。

新居浜市では、将来的に、より一層の人口減少や人口密度の減少、超高齢化社会の進行が見込まれるため、拡大した市街地のままでは、今まで身近に利用できた商業、医療等の日常生活に必要な機能が失われ、現在の暮らしやすさが損なわれてしまうことが心配されるため、それに対処し、新居浜市全体としてコンパクトで魅力と活力のあるまちづくりを行うため、立地適正化計画を策定しています。都市機能誘導区域は、都市再生を図るため、医療施設、福祉施設、商業施設などの都市機能増進施設の立地を誘導すべき区域として、この計画で定められた区域です。

新居浜市では、4地区が定められています。今回は都市拠点としての位置づけ、網羅されている一宮町・繁本町・昭和通り周辺地区、新居浜駅周辺地区、前田町周辺地区について質問させていただきます。

まず、一宮町・繁本町・昭和通り周辺地区ですが、一宮町、繁本町周辺では、想定される事業イメージとして、行政・文化施設の集積と歴史文化資源を生かしたまちなか居住を促進する拠点の形成を提唱しています。周辺地区の魅力ある拠点整備を進めることが重要です。国や県の施設、N T Tや郵便局などの施設を含めた、10年後、20年後の未来図を描くことはできないでしょうか。将来構想をしっかりと描き、官民協働のまちづくりを実現いただきたいという思いで質問させていただきました。

また、文化センターについてですが、開館当時の記念誌では、市外から訪れる人々も、その豪華な風格に驚いていると称されています。市政だよりでも取り上げられたように、日建設計による設計で、真ん中には大ホール、左側には図書館、右側には公民館が配置されており、それをつなぐピロティ、外廊下は全国的に珍しいものとされています。開館当時の新建築（1963年5月号）でも、その優美な姿が図面とともに紹介されています。この市民自慢の文化センターを少しでも長く保存、活用できるよう検討できないかお伺いします。

次に昭和通り周辺ですが、川東地区とつなぐ東西軸、西原松神子線、敷島通りですが、都市計画変更をされるようですが、整備の見通しについてお聞かせください。

次に、新居浜駅周辺地区と前田町周辺地区ですが、令和4年6月議会で、都市再生推進法人について質問させていただいた件ですが、事業の募集により、まちづくりの検討ができないかお伺いします。当時、理事者からは、都市再生推進法人は、まちづくりのニーズに応じた都市形成について、参画から実施、管理、運営などを担う新たな官民連携の形として期待されている制度であると認識しており、指定をされた場合、まちづくりにおける公的な位置づけが付与されることから、都市再生整備計画の策定等の提案や、都市再生特別措置法による各種制度等の活用が可能となり、民間が公共性を担保しつつ、公共空間を効果的に活用したエリアマネジメント事業なども進めていくことが可能となります。新居浜での募集については、立地適正化計画における都市機能誘導区域でエリアマネジメント等を推進する際には、都市再生推進法人を募集することも一つの手段として考えられるが、現段階では官民連携のまちづくりに関しては、都市再生推進法人だけでなく、指定管理者制度やP F Iなどの手法も含めて、幅広く検討していくことが必要とのことでした。

まちづくりの展開において期待する提案と想定については、都市機能誘導区域などにおいて、それぞれの地域に応じた課題解決に向け、民間が持つノウハウ、サービス、ネットワークなどを有効活用した提案を想定し、そのような提案が先導的な役割を果たすことで、特色あるまちづくりになることを期待しておりますとのことでした。

都市機能誘導区域内での事業展開

を民間ディベロッパーに委ねた場合、大型施設を建設して、にぎわいの創出により、一定のまちづくりは図られると思いますが、都市再生推進法人がまちづくりを担うことで、単体の施設にとどまらず、公益施設の整備も図られ、官民連携でのPFI事業展開も検討し、周辺圏域にない、例えば多目的アリーナ、そういった施設も検討できるのではと考えたりしております。

また、駅周辺のまちづくりや、現有施設の管理運営を委ねることで、広場への大屋根や大型ビジョン、文化施設も一体的に考えた魅力あるまちづくりが図られると考えております。

事業展開に期待したいのですが、御所見をお聞かせください。

○議長（小野辰夫） 答弁を求めます。高橋建設部長。

○建設部長（高橋宣行）（登壇）
みらい新居浜代表の合田議員さんの質問にお答えいたします。

わくわくする楽しい新居浜の未来図についてでございます。

まず、都市機能誘導区域についてお答えいたします。一宮町・繁本町・昭和通り周辺地区についてでございます。

本市においては、立地適正化計画により、医療、福祉、商業等の都市機能を都市拠点において維持、確保するための都市機能誘導区域を定めております。一宮町、繁本町周辺における国や県の施設、NTTや郵便局などの民間施設を含めた10年後、20年後の未来図につきましては、市の所管ではない公共施設や民間事業者の計画も含まれることから、現段階で市において描くことは難しい状況でございます。

しかしながら、新居浜市都市計画マスタープランにおきまして、都市拠点の特性と今後の発展方向を踏まえた整備方針を示しており、行政、文化施設が集積する一宮町、繁本町周辺地区においては、既存官公庁施設の改修、再生を行い、行政・文化・防災機能の強化を推進することとしております。

市民文化センターにつきましては、今日まで市民の皆様により文化や市民活動の拠点として御利用いただいております。

しかしながら、建設から60年以上が経過し、老朽化が進んでおり、令和9年度には使用目標年数を迎えますことから、現施設の保存、活用を含め、今後の在り方につきましては、市民の皆様の思いや本市の未来の姿も想定しつつ、機能、財源の見通しなど多角的な視点を持って判断してまいりたいと考えております。

昭和通り周辺と川東地区をつなぐ都市計画道路西原松神子線の整備につきましては、現在、事業実施中である上部東西線及び都市計画道路宇高西筋線等の進捗状況を勘案しながら、事業着手時期を検討する必要があります。まずは愛媛県及び本市において事業化しております宇高西筋線との交差点部分が、優先して整備する箇所であると考えております。

次に、新居浜駅周辺地区と前田町周辺地区における都市再生推進法人

を活用した事業展開についてでございます。

都市再生推進法人は、都市形成において、参画から実施、管理、運営などを担うことができます。本市の現状においては、施設整備を含んだ事業展開を行うことは難しいと考えており、まずは管理、運営などのソフト事業を中心とした活動から始める必要があると考えております。いずれにいたしましても、官民連携のまちづくりに関しましては、P F Iなどの様々な手法の活用も含め、幅広く検討していくことが必要であると考えております。

○議長（小野辰夫） 合田晋一郎議員。

○10番（合田晋一郎）（登壇）

ありがとうございました。

魅力ある町は、市がどれだけ将来を見据え、市民が夢と希望を持つことができるかだと思います。市長の熱い思いの計画推進が町の将来を左右すると思いますので、よろしくお願いいたします。

次の質問に移ります。わくわくする楽しい新居浜の未来図、2つ目の四国新幹線についてです。 子供たちの新居浜の未来図に、よくわくわくしながら描かれる新幹線についてです。市制50周年記念誌にも、未来都市にいはまとして高架の新幹線が描かれていました。この新幹線の整備は、1972年に田中角栄氏が政策構想として発表した日本列島改造論に由来し、地方の過疎と都市部の過密の同時解消を目指し、高速道路や新幹線といった交通網の整備が進められました。人、金、物の流れを地方に分散させることが重要視されています。

現在の整備計画路線の中では、北陸新幹線の金沢－敦賀間が昨年3月に延伸開業し、北海道の新函館北斗－札幌間が建設中です。残る未着工区間は、九州長崎ルートの新鳥栖－武雄温泉間や、北陸の敦賀－新大阪間のみです。次に、どこを整備するかが大きな焦点となっており、四国新幹線の基本計画路線から整備計画路線への格上げをオール四国で推進しています。

四国は、唯一新幹線がない地域で、イギリスでの国際的な会議で、日本列島に四国が描かれていなかったという事実は寂しい限りです。

現在、新幹線への格上げを目指しているのは、四国以外にも、鳥取・島根地方の山陰、松江－岡山間の伯備、大分・宮崎地方の東九州などがあります。地元の機運醸成が何より重要ですが、四国には必要ない、お金の無駄といった意見も聞かれます。しかし、災害に強い新幹線は、四国にとって必要不可欠です。在来線の複線化や強靱化が先だとの意見もありますが、その予算や防災対策を考えると、新幹線の整備が優先されるべきだと考えます。

また、新幹線が通っても、新居浜は通過するだけだとの意見もありますが、国土交通省の幹線鉄道ネットワーク等のあり方に関する調査では、四国中央市、新居浜市、西条市に駅を建設する想定があります。北陸新幹線などの既存の路線からも新

居浜駅の可能性を確信しています。

この点について私の考えを述べさせていただきますと、既存の新幹線ルートから新居浜を想定すると、四国中央市から郷山をトンネルで抜け、今の新居浜駅に新幹線を乗り入れ、西条市には金子山から抜けるルートが考えられます。このルートが新居浜市の活性化にとって有効であると思います。新居浜市でも四国新幹線の開業に向けて、独自の盛り上がりや機運を高めることが必要だと感じています。工事が始まれば、まず松山－高松間の着工が想定されます。その際、新居浜で機運が醸成されていれば、松山－新居浜間、新居浜－高松間の早期着工も実現可能と考えます。新幹線の実現では、地元の先行したまちづくりが重要です。福井駅、金沢駅、小松駅も三十数年前から、新幹線開通に向けた機運でまちづくりが進められてきました。このように、新居浜の未来図に新幹線の開業を描いていただきたいとの思いから質問させていただきました。新幹線開業に向けての御所見をお聞かせください。

石破首相も令和の列島改造を提唱し、若者や女性にも選ばれる地方、産官学の地方移転と創生、新産業の創出など地方イノベーション創生構想、新時代のインフラ整備、都道府県を超えた広域連携の5本の柱を進めていく考えのようです。

危惧されるのは、国が進める高速道路網はほぼ完成しつつある中、未整備の新幹線網を推進するかどうかとの抜本的変革を唱える動きがあることです。今、真剣に地元から、新居浜市から整備を目指さなければとの思いで質問させていただきました。よろしく願いいたします。

○議長（小野辰夫） 答弁を求めます。古川市長。

○市長（古川拓哉）（登壇） 四国新幹線についてお答えいたします。

四国新幹線の開業は、人や物の流れがこれまでよりもスムーズになり、個人だけではなく、企業活動にもプラスの影響をもたらすことが予想され、ビジネス範囲の拡大に伴う企業活動の活発化や大手企業の本社機能や工場、研究所などの移転、誘致、ひいては人口減少の抑制、定住人口の増加が見込まれるなど、大いにその効果が期待されるところでございます。

現在、県内全ての市町、経済・観光・農林水産団体が参画している愛媛県新幹線導入促進期成同盟会におきましては、新幹線導入に向けた国への要望活動等を行うほか、パンフレットや動画作成等による広報活動や各種イベント等の機運醸成活動等を実施いたしております。

本市におきましても、四国新幹線誘致に向けたホームページでの動画配信や署名活動に取り組んでいるほか、昨年12月21日には、イオンモール新居浜において、愛媛県新幹線導入促進期成同盟会主催のイベント、「はしれ！みんなの四国新幹線」を開催したところでございます。

また、現在、新幹線の生みの親と呼ばれている本市出身の十河信二翁と妻キクを主人公としたNHK

の朝ドラ実現に向けて、愛媛県、西条市と連携して取り組んでおり、この活動を通して、四国新幹線の機運醸成にもつなげてまいりたいと考えております。

今後におきましても、四国新幹線の実現に向けて、引き続き、四国新幹線整備促進期成会及び愛媛県新幹線導入促進期成同盟会と連携を図ってまいります。

○議長（小野辰夫） 合田晋一郎議員。

○10番（合田晋一郎）（登壇）市長からの御答弁ありがとうございました。よろしくお願いいたします。

この新幹線がもし開通したら本州ともつながるんですけど、松山―高松間も今は142分かかるんですが、それが42分に短縮、100分も短縮されることになります。そういったことから、四国内の活性化にも必要だと思いますので、ぜひよろしくお願いいたします。

こういったことが議会、またいろんなところで議論されることによって、より盛り上がるんじゃないか、また国にも熱意が伝わると思いますので質問させていただきました。ありがとうございます。

次の質問に移ります。わくわくする楽しい新居浜の未来図、3つ目の路線バス再編計画についてです。

新居浜市都市イメージに関する調査報告書によれば、自然環境や生活環境の満足度は高いものの、市民が魅力を感じない点として挙げられているのは、まず市内の交通の便が悪いとの回答が54.2%、次に、家族で楽しめる施設、スポットが少ないとの回答が49.8%です。これらの結果から、交通インフラや娯楽施設に対する不満が多く見受けられます。

また、市民が望む街の将来像としては、お年寄りが暮らしやすい街が45.1%、子育てのしやすい街が39.6%という結果が出ています。このことから、生活に直結した施策のさらなる充実が求められていることが分かります。このことから、路線バスの再編に向けた取組が必要だと考えております。私自身、多くの市民から路線バスに関する要望をいただいております。今回質問させていただきます。

地域公共交通計画を策定する際に実施した市民アンケートでも、約6割の方が路線バスを重要な公共交通手段として認識している一方で、利用しづらいや分かりにくいといった意見も多く寄せられています。このため、地域公共交通の要である路線バスがその役割をしっかりと果たすためには、利便性を向上させ、市民が利用しやすく、効率的な運行を実現するためのバス路線の再編が求められています。

1月に開催された都市基盤整備促進特別委員会で、新居浜市路線バス再編計画（案）が示されました。次の3つを基本方針として検討されています。市内の各地域を効率的に結ぶ利便性の高い公共交通ネットワークの構築。みんなが利用しやすく、わかりやすい公共交通サービスの提供。将来にわたって安心して乗り続

けられる持続可能な地域公共交通。コンセプトとして、新居浜駅に行けば、市内どこへでも行ける・つながるを掲げ、重複して並走する現行路線の整理や、新居浜駅を起点とする市内循環バスの新設、通学ライナーの検討がなされています。特に、都市機能誘導区域の3拠点を結び、上部地区や川東地区を循環する路線の拡充は非常に魅力的であり、また、車椅子やベビーカー、シルバーカーでも乗り降りできる市内循環バスが実現すれば、まさに市民の期待に沿ったものであると考えます。新居浜駅での乗換えに課題があるようですが、乗換えなしで各地区を巡回できることが理想です。さらに、新居浜駅周辺の魅力が高まることで、乗換えに対する抵抗感も軽減されると考えます。

そこでお伺いいたします。現在の路線バス再編計画のスケジュール及び進捗状況について教えてください。また、利用促進策も重要だと思いますが、再編に伴う無料乗車デーなどの取組について検討されていますか、お伺いします。

○議長（小野辰夫） 答弁を求めます。宮崎経済部長。

○経済部長（宮崎司）（登壇） 路線バス再編計画についてお答えいたします。

現在の進捗状況といたしましては、これまで乗降者数調査、市民アンケートの実施、市民団体や商工関係者、高校生との意見交換会等を含め、新居浜市地域公共交通活性化協議会を3回、分科会を5回開催してまいりました。これらの協議を踏まえ、重複している路線を整理して、新居浜駅を起点とする循環バスの導入を基本とする案を活性化協議会に提案いたしました。現在の路線を利用している人が不便になる、乗り継ぎの少ない現在の路線をベースに見直しを行うほうがよいといった意見が多く、現在の路線をベースとしたルートの見直しについて、引き続き協議を行っているところでございます。

今後のスケジュールといたしましては、3月開催予定の新居浜市地域公共交通活性化協議会におきまして、ルート見直しの合意が得られれば、引き続きダイヤ、運賃、バス待ち環境整備等の利用者の利便性向上についても協議を進めていくことといたしており、その中で、無料乗車デーなどの取組につきましても協議してまいりたいと考えております。

○議長（小野辰夫） 合田晋一郎議員。

○10番（合田晋一郎）（登壇） ありがとうございます。

地域公共交通についてはもう地域課題であります。その中で、今回、質問にはちょっと触れませんでした。一般社団法人全国自治体ライドシェア連絡協議会というのが設立され、これは国主導ではなくて自治体主導で取り組まれております。そういったことも、私もちょっといろいろ勉強していきますので、よろしく願いいたします。

今回、わくわくする楽しい新居浜という形で質問させていただきまし

たが、市長は所信で、この町が持つ未来を創造する力に、私自身や市民の皆様の思いを重ね合わせながら、輝き続けることのできるまちづくりを目指すと表明されておりました。市長の思う未来図をぜひ掲げていただきたい、そういった思いで質問させていただきました。